

科目名	保健医療サービス						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	島 京子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	医療機関にて 相談員として勤務		
対象学科・学年	こども福祉科3年						
授業概要	相談援助活動において必要となる医療保険制度・診療報酬制度・医療法や保健医療サービスについて学ぶ。保健医療サービスにおける専門職の役割と実際及び多職種協働について学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				保健医療サービス(医療保険・診療報酬・医療法など)の概要について説明できる。	
	○	○				保健医療関連専門職の役割について、多職種協働について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉養成講座「保健医療サービス」中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	保健医療サービスの利用者の理解①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	保健医療サービスの利用者の理解②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	保健医療サービスを提供する施設とシステム①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	保健医療サービスを提供する施設とシステム②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	保健医療専門職の役割①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	保健医療専門職の役割②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	保健医療サービスの提供と経済的保障			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	保健医療サービスにおける専門職の連携と実際①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	保健医療サービスにおける専門職の連携と実際②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	保健医療サービスにおける今後の課題と展望			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	まとめ・振り返り						
評価方法	(1)宿題・レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		50%
履修上の注意							

科目名	施設実習指導						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	岩田 佐知子
実施年度	2019年度		実施時期	通年(後期)		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	こども福祉科 3年						
授業概要	施設実習は保育現場において子どもや利用者と直接接することにより、理論の実践化・実践の理論化の両方を試みる体験学習の機会である。施設実習をより効果的に行うために、実習の意義やねらい・実習対象者施設・実習の心構え等について事前指導を行う。 自ら調べることで、より施設についての理解を深める機会とする。						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習: △	実技: △	※ 主たる方法: ○ その他: △	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		児童福祉施設の概要の理解	
	○	○		○		施設の生活の理解	
	○	○		○		歴史・近郊の傾向の理解	
	○	○		○		援助内容と方法の理解	
	○	○		○		施設実習の概要と学びのポイントの理解	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿大学九州短期大学 保育実習指導 ・ミネルヴァ書房 幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	実習の振り返り、保育実習Ⅱ・Ⅲ書類準備				実習施設希望調査及び実習施設を確認しておくこと	
	2	実習報告会準備				実習施設関連のことを調べておくこと	
	3	実習報告会準備				実習施設関連のことを調べておくこと	
	4	実習報告会				実習施設関連のことを調べておくこと	
	5	保育実習Ⅱ・Ⅲ準備オリエンテーションンについて				実習施設関連のことを調べておくこと	
	6	保育実習Ⅱ・Ⅲ準備、ファイル作成、提出方法及び実習中の諸注意				実習施設関連のことを調べておくこと	
	7	パネルシアター作成				実習施設関連のことを調べておくこと	
	8	パネルシアター作成				実習ファイルを準備しておく	
	9	パネルシアター作成				実習前課題を考えておく	
	10	パネルシアター発表				教科書の該当範囲配布プリントを事前に読んでおくこと	
	11	エブロンシアター作成				教科書の該当範囲配布プリントを事前に読んでおくこと	
	12	エブロンシアター作成				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	エブロンシアター作成				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	エブロンシアター発表				実習ファイルを準備しておく	
15	3年間実習振り返り評価替えし				実習ファイルを準備しておく 教科書の該当範囲プリントを事前に読んでおく		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施なし。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)実技試験を実施する。 (4)実習評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習評価	○	○		○		50%
	宿題・レポート	○	○				20%
	作品・発表	○	○		○		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、実技試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会保障						
科目名(英)	social security						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	安川 渉寛		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども福祉科3年						
授業概要	国家資格である社会福祉士並びに精神保健福祉士の取得に際し、必須科目であると同時に、社会福祉構造全般を学ぶことができ、福祉系の就職及び業務遂行にあたっては、基底となる科目である。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		自身の生活と社会保障の関わりについて認識をもつことができる。	
	○					形式的知識を身につけ、1つ以上の福祉制度を簡略化して説明できるようになる。	
				○		テキストの文章表現よりも分かりやすく、ビジュアルアウトプットができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	社会福祉士要請講座編集委員会編『新・社会福祉士要請講座12 社会保障 第6版』(中央法規) ※この他にも、厚生労働省作成資料等を配布することがある						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護保険制度(概論、制度設計の経緯と背景等)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	介護保険制度(サービスの内容、費用、認定区分等)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	介護保険制度(予防、実態、地域性等)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	労働保険制度(労働災害補償保険等)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	労働保険制度(雇用保険を含む、労働保険制度全般)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	社会福祉制度(沿革と概要、社会福祉法等)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	社会福祉制度(生活保護制度)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	社会福祉制度(児童福祉)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	社会福祉制度(障害者福祉)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	社会福祉制度(ひとり親家庭の支援)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	社会福祉制度(社会手当制度)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	社会福祉制度(レビューとまとめ)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	民間保険と社会保障の課題(概論～高齢化問題等)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	後期のレビュー(小テストの実施予定)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	通年のレビュー(模擬テストの実施予定)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	出席及び提出物等の状況、授業中の発言、発表、意欲等(50%)、期末試験(50%)の割合を基準に、個別で総合的に勘案して、評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末試験		○				50%
	出席及び提出物の状況				○		25%
	授業中の発言及び意欲				○		25%
履修上の注意	2/3以上の欠席がある場合は、期末試験を受験することができない。						

科目名	接遇マナーⅡ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	野田 アツ子		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども福祉科 ・ 3年						
授業概要	子ども福祉を学ぶ者としては、専門知識と並行して人と関わる能力が必要不可欠である。他人を尊敬する気持ち、謙虚な姿勢、共感と誠実な対応なしには成り立たない。授業では、保護者や取引先、上司に対する状況に合わせた話し方、電話での対応、来客への対応、ビジネス文書など実践的な知識習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		人との会話は、声の響きや話の速度を工夫し、好感を与える話し方聴き方ができる。	
	○	○				言葉遣いは、相手と自分の立場を考え、尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い分けができる。	
	○	○	○			電話の対応は、メモを取りながら感じよくはっきり話し、用件を処理することができる。	
	○		○	○		来客の対応は、迅速に気配りのある立ち居振る舞いで取次、案内することができる。	
○	○				ビジネス文書は、形式にのっとり正しい文書用語を使って作成することができる。		
テキスト・教材 参考図書	専門教育出版 実社会で求められるビジネスマナー						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	好印象を与える自己表現力			アドバイスを参考に繰り返し練習すること		
	2	好印象を与える自己表現力			アドバイスを参考に繰り返し練習すること		
	3	話し方—コミュニケーション、返事と挨拶			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	話し方—正しい敬語、敬語の使い分け			小テストを実施するので復習しておくこと		
	5	電話対応—電話対応の心構え、受け方、かけ方			小テストを実施するので復習しておくこと		
	6	来客対応—受付から見送りまで			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	ビジネス文書—文書の形式、宛名の書き方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	プレゼンテーション—実技試験			テーマに沿った準備をしておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業内で実技試験を実施する。(2)授業の中で小テストを2回実施する。(3)授業態度も考慮する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技試験		◎	◎	◎		50%
	小テスト	◎	◎				40%
	授業態度				◎		10%
履修上の注意	1回目と2回目はスーツ着用のこと。スマートフォン等情報機器の操作は禁止する。						

科目名	相談援助演習(3年次分)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども福祉科3年						
授業概要	社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次の方法により、実践的に習得するとともに、専門的援助技術について理解し、実践できる能力を身につける。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例について考える。 ②個別指導並びに集団指導を通して具体的な援助場面を想定した実技(ロールプレイング)、グループワークを行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		○			社会福祉士としての倫理について学び、クライアントの主体性を尊重した相談援助を実践できるようになること。	
	○		○			社会福祉の現場において、現場の問題点について気づき、改善できるようになること。	
テキスト・教材 参考図書	教師作成プリント・相談援助実習日誌						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	課題検討①(導入・自己覚知・アセスメント)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	2	課題検討②(ソーシャルワークの視点)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	3	課題検討③(ICFの視点、ストレングス視点、エンパワメント・アプローチ、クライアントの立場)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	4	課題検討④(プランニング)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	5	課題検討⑤(社会福祉士の倫理綱領)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	6	課題検討⑥(アセスメントを通しての情報収集)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	7	課題検討⑦(アセスメントを通しての情報収集)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	8	課題検討⑧(エコシステムの視点からの情報収集Ⅰ)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	9	課題検討⑨(エコシステムの視点からの情報収集Ⅱ)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	10	課題検討⑩(地域福祉の計画、アウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	11	課題検討⑪(ニーズの多様性の理解Ⅰ)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	12	課題検討⑫(ニーズの多様性の理解Ⅱ)				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	13	ビネット作り				実習日誌の振り返りをしておくこと	
	14	ビネットアセスメント～プランニング				実習日誌の振り返りをしておくこと	
15	まとめと確認テスト						
評価方法	(1)グループワークへの参画度(毎回の課題により評価)、(2)15回目実施の確認テストの点数により評価をする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループワークへの参画				○		50%
	確認テスト		○				50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を出さない。						

科目名	卒業研究						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	岩田 佐知子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年							
授業概要	保育・教育の学びとして1つのオペレッタ作品を作り上げる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					調べ学習からのプレゼンテーション能力	
				○		表現する能力	
				○		協同する力	
	○					企画、計画を立案し協力して進めていく力	
				○		創意工夫力	
テキスト・教材 参考図書	各自 必要な本・教材を準備する						
授業計画	回数	授業項目・内容					
	1	台詞練習・場面練習					
	2						
	3						
	4	立ち稽古					
	5						
	6	通し稽古(音響、小道具、大道具、照明準備)					
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12	保育園での発表					
	13	リハーサル					
	14	卒業研究発表					
15	片付くおよび反省会						
評価方法	作品・発表レポート提出及び取り組み態度						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品・発表	○	○		○		50%
	レポート	○					20%
	取り組み態度				○		30%
履修上の注意	表現する力、協同する力を発揮できるように、1人ひとりが意識を持つこと。						

科目名	保育・教職実践演習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	増田 吹子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども福祉科3年						
授業概要	実習経験の振り返りや文献講読等を通して、子ども・保育についての考え方を深める。特に、「遊びを通して行う」「環境を通して行う」といった保育の基本や自発性・主体性を重視した指導について確認し、指導計画・カリキュラムを考え、要領や指針のポイントについて学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					実習で経験したことを基にエピソード記録を書くことができる。	
		○				エピソードを分析して、10の姿・三つの柱について考えることができる。	
		○				主体性を重視した行事指導の計画を考えることができる。	
		○		○		自分なりの保育観をもち、人に分かるように説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園教育要領及び解説書 倉橋惣三『育ての心』						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	実習の振り返り ～エピソードから捉える10の姿と3つの柱			実習日誌等を見直しておくこと。		
	2	実習の振り返り 実習経験についてのまとめと発表			実習日誌等を見直しておくこと。		
	3	行事指導の考え方 主体性を重視した行事指導			実習日誌等を見直しておくこと。		
	4	行事指導の考え方 指導計画の作成			実習日誌等を見直しておくこと。		
	5	保育観を深める 子どもの姿から考える			実習日誌等を見直しておくこと。		
	6	保育観を深める 倉橋惣三「育ての心」を読む			実習日誌等を見直しておくこと。		
	7	理想の保育を考える パンフレットの作成			実習日誌等を見直しておくこと。		
	8	理想の保育を考える 発表・まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1) 製作物、(2) 授業態度(出席率、居眠り・私語等)、(3) 定期試験の点数により評価をする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	製作物				○		25%
	授業態度				○		25%
	定期試験	○	◎				50%
履修上の注意							